令和 6年 7月 26日

行政視察報告書		(会派の場合) 会派の名称			
		代表者氏名			
		(会派以外の場合) 議員氏名	笠原	俊一	
参加議員	伊東・圭	介 議員	中村	和雄	議員
	土佐 洋	子 議員	荒井	直彦	議員
	笠原 俊	一議員			議員
		議員			議員
日 程	令和 6 年 7 月 10 日 (水) ~ 令和 6 年 7 月 12 日 (金)				
視察先	(1) 就労支援 B 型施設 宮古学園				
	(2) 宝塚医療大学宮古島キャンパス				
	(3) 中山コーヒー園				
視察目的(項目)	(1) ・苦労していること ・運営の問題点・課題 ・運営資金の補助				
	(2) ・廃校を利用した経緯 ・活用した補助制度 ・学生の出身地				
	(3) ・開業の経緯 ・コーヒーの木の種類や原産地				

【調査内容・概要】

沖縄県概要 伊東 圭介

・沖縄県は、九州から台湾に連なる南西諸島の南半分に及ぶ広大な海域に散在する島々から成っている。そのうち有人島は、48である。また、平成25年4月に中核市に移行した那覇市をはじめ41の市町村がある。

県土の総面積は、2282.15 ㎡で香川県、大阪府、東京都に次いで全国で 4 番目に小さい県である。そのうち 8.2%が米軍基地等の米軍提供施設面積である。

人口は、復帰当時の昭和 47 年に約 96 万人だったがその後年々増加し、令和 4 年には、146 万人を超えた。全国的には、すでに人口減少社会に入っているが人口増加率では、東京に次ぐ第 2 位である。地域別の人口は、約 9 割が沖縄本島に居住し、特に那覇市を中心とした中南部地域に集中している。

今回の視察は、宮古島も訪問したので概要についても触れておく。

・宮古島は、沖縄本島から南西に約300km、東京から約2000kmに位置して大小6つの島で構成されている。

宮古島市の面積は、204 L 、人口約 55000 人で、人口の大部分は平良地区に集中している。

島全体が概ね平坦で低い台地状になっており、山岳部は少なく、大きな河川も無い

ことから生活用水等のほとんどを地下水に頼っている。そのような現状から宮古島では、地下水を守ることと環境づくりのために「エコアイランド宮古島」を宣言している。また、毎年国際的規模のイベントである全日本トライアスロン宮古島大会やプロ野球のキャンプ、各種スポーツ団体の合宿等が行われ、島全体が「スポーツアイランド宮古島」として活気づいている。近年、リゾート開発も盛んになり人口も増加して地価も上昇している。

今回の視察調査では、社会福祉法人 みやこ福祉会と宝塚医療大学観光学部宮古島 キャンパス、沖縄本島の名護市では、中山コーヒー園を訪問した。

みやこ学園視察(社会福祉法人 みやこ福祉会)視察報告 笠原 俊一

宮古島飛行場に隣接するビュッフェレストラン大平山にて、法人創始者で理事長 兼総合施設長の伊志嶺博司と面談した。

(働く喜びを共に・豊かな日々を)活動指標とされている。

「障がい者雇用の実態は、就業実習生としての扱いは行政からの指示や助成金もあり各企業は賛同するが、正式採用には健常者優先で二の足を踏む現状だ」話の出だしがこうしたことで、優しい顔に似合わず意志の強さやかなりの苦労をされてきた人だという強烈な印象を受けました。

自らの体験をもとに障がい者が自立できる仕組み、体験談から施設の案内をして いただいた。

1階がパン工房「アダナス」ガラス張りの作業場は障がい者の方々が働く姿が見れる。 2階は航空機の離発着を見ながら食事のできるビュッフェレストラン大平山は障がい者の方たちの働く場所でもあり、地元野菜とみやこ学園の生産した野菜、クラフト製品、エコバックなどの販売。定休日のため昼食と働く様子見学は翌日にしました。 2階に向かう通路には家族写真をたくさん張られた家のように、笑顔あふれる働く顔や姿、各種イベントの写真が貼られ施設の一部で一般レストランでないことが理解できます。

伊志嶺理事長と我々5人、時折の飛行機の離発着を見ながら50席はあると思われる、2階レストランでみやこ学園の創業からの数々のご苦労されたお話や事業概要などをお伺いした。その後、職員休憩中の作業所の野菜、花のビニールハウス、収穫作業の終了していた無人のメロンハウスを見学した。

それぞれの名称は、野菜ランドみやこ(就労継続支援 A 型)、メロンランドみやこ、みやこ学園(就労継続支援 B 型及び就労移行支援)、パン工房アダナス(就労継続支援 B 型)

約2時間の視察ですべて見ることはできませんでしたが、そのほかにもグループホームや介護事業所もあり、平成11年2月設立準備委員会設立、当初2施設からの立ち上げから、平成27年トマト栽培施設トマトランド設置までの多くの障がい者支援施設開設までの法人の沿革の資料をいただきました。

さらに裏話的には、平成8年から無認可で始めた話や「障がい者を利用して金儲け

している」とした誹謗中傷があったこと。宮古島マラソン会場を飾るプランタの花 800鉢の導入裏話、障がい者の自立支援には働く場所確保が必要と現在も奔走中 で、18歳から70歳までの方たちがみやこ学園で働いているとのことでした。





視察報告 土佐 洋子

・宮古島市みやこ学園

みやこ学園では、働くことが中心的な活動で、「働く大人同士」の関係を基本にして、支援・援助に当たっているので、職員を「先生」と呼ぶことはない。利用者を「働く仲間たち」ととらえている。作業班の編成にあたっては、障害の程度、個々の適正を考慮しつつ、仲間同士の関係を大切にして「力を合わせる」・「いろいろな仕事を経験し、その中で育つ」ことを目指している。また、働くことだけではなく、「明るく楽しい笑顔」をモットーに、仲間たちが豊かな人生を送れるように文化活動や健康の維持にも力を入れている。

22 年前 障害者が働くという概念がなかった・・・養護学校を 18 歳で卒業すると、学校を追い出されてしまい居場所がなくなり、自宅にいるしかなく 地域に出るということがなかった。

そこで伊志嶺理事長が立ち上がった。平成8年に無認可で5人でスタート。平成9年には15人に増えた。それはほとんとが在宅でいたから。そして、平成10年には26人、平成11年に40人とどんどん増えていった。

みやこ学園は就労移行が 6人、就労継続支援 B型が 34人で年齢は 18歳~70歳。一般就労を目指していて障害者基礎年金を月額に換算して、給与約 9万円を足すと、月額約 15万円となる。

お話を伺った、レストラン大平山は宮古空港の滑走路を挟んだ向かい側にある。ビュッフェ式のランチで、地元の食材や法人で生産しているほうれん草や葉物などを使用した食事を提供してくれている。レストランから身近に見える飛行機の離発着を眺めながら食事を楽しむことができる。入口を入るとパンを焼いている香りが食欲をそそられ、ガラス張りの作業所で障害者のみなさまがパンを製造しているところを拝見するところができる。パンは1日に1500ケ作られて、市内40ヶ所で販売されている。

メロンの栽培と出荷もしていて、ハウス栽培の様子も見学させてもらいましたが、ちょうど出荷したばかりでメロンが見れなかったのは残念でしたが、1年に3

階出荷できるそうです。

宮古島での大きなイベントである「宮古マラソン」では前夜祭・後夜祭そして総合グランドに800ケのサルビアやマリーゴールドのプラントの設置も行っています。

伊志嶺理事長の熱い思いを感じた視察となりました。障害者をもつ親や本人にとっての環境整備、それぞれの幸せの追求、ノーマライゼーションの構築を目指していきたいと思います。





・宝塚医療大学観光学部観光学科宮古島キャンパス

宮古島市で初の高等教育機関となる宝塚医療大学宮古島キャンパスが 2024 年 4 月 に開設されました。廃校となる予定だった旧城辺中学校を改修し建物を宮古島市より無償譲渡されている。

1年次に英語など基礎を学び、2年次以降は兵庫県の尼崎キャンパスで専門科目に分かれる。島内のホテルなど企業が奨学金を出し、卒業後に一定期間勤務すれば返還義務を免除する制度も導入されるそうです。これまで高校卒業後に島を離れて戻ってこなかった人材の確保にも期待が寄せられているが、島を早く離れたいという心理があるため逆に1年~3年次に尼崎キャンパスで授業を行い、4年次に宮古島キャンパスに戻るというのはどうだろうかと感じた。

学生寮は127室あり、島外の学生や海外留学生を受け入れる。吹き抜けの真ん中にはBBQエリアもあり、1ルームでコンパクトにまとまっている。

定員は 100 人だが、認可が下りたのが 2023 年 11 月ということでか、現在の学生は 7 人のみですべてが留学生である。内訳としては、ロシア・パキスタン 2 人・モンゴル 2 人・ネパール 2 人となっている。学生のアルバイトは 1 週間に 28 時間以内と定められていて、シギラリゾートなどで時給 900 円でウェイター・皿洗い・ベッドメイクなどを行っている。ミャンマーから 15 人の合格者がいるけれど、国から出国できないそうです。

廃校となる予定だった素敵な中学校の校舎を利用してのキャンパス開設ですが、 来年以降の入学者数に期待をしたいと思います。

宮古島にはもともとシーサーはいないとか**№** 水字貝がお守りになっていることを初めて知りました。

キャンパスのお隣にある旧市立図書館城辺分館を、2023年4月に大学付属図書館宮古島分館として開館。取り壊す予定だった施設を再活用し、地域住民に開放し

ているのはとても良い取り組みと感じた。





視察報告 中村 和雄

○みやこ学園

創設者で理事長の伊志嶺博司氏から説明を受けた。

20 数年前当時、宮古島には障害者の入所施設が 2 か所(定員各 30 名)あったが、ほとんどの障害者が在宅を強いられていた。氏には障害を持つ姉がいた。当時は、養護学校と父母の会とに接点がなかった。養護学校の卒業は、学校からの追い出しだと氏は言う。

平成8年、氏は無認可で5人の障害者を預かることから事業を始め、翌年に15名、翌々年には26名になった。その中で利用者から発作を起こす人が出て、人の命を預かることの意味の重さを考えるに至り、県と協議を重ねるなかで、平成11年にみやこ福祉会設立準備委員会を設立して平成13年にみやこ福祉会の認可を受け、平成13年にみやこ学園を開所するに至った。

その後、障害者の就労支援にとりくむなかで、今日の就労移行支援事業、就 労継続支援 A・B 型事業、グループホーム(2 か所)、生活介護事業、就業・生 活支援センターへと事業を拡大してきた。

理事長の説明を受ける中で、いくつかの示唆や教訓を得た。

一つ目は、先ずはやってみて、その中で困難を解決していくという氏の姿勢である。それに対して、法令や制度を盾に新しい試みに立ちはだかる県職員の姿勢に、元公務員の私としては反省するところ大であった。

二つ目は、島内の事業所のほとんどが、実習生を受け入れてくれるということだ。葉山ではどうだろうか。土地柄なのか、氏の人柄・熱意なのか。氏は、実習は受け入れてもらえると言っていた。葉山でもお願いすれば引き受けてもらえるのか。ただ、採用となると、最賃の壁のため困難ということだった。

三つ目は、実は聞き損なったのだが、融資の問題である。

飛行機の離発着を目の前で見られるレストラン太平山(自社ビルで、就労継続支援 B型アダナス併設)にしても、メロンや野菜を栽培している広大な温室設備にしても、それぞれ億単位の建設費がかかっているとのことだったが、実績の少ない福祉法人にどこの金融機関?が融資してくれたのか。土地柄が関係しているのか。

四つ目は、障害者一人ひとりの個性・能力に見合った仕事を見つけることの大切さだ。これから、人口減少が進み人手不足が厳しくなる中で、障害者に潜在する能力の発見と仕事へのマッチングは、障害者本人はもちろん社会のためにも重要なテーマとなる。障害者を社会の担い手として積極的に位置づける視点は、障害者の人権問題をさらに推し進めることにつながるはずだ。





○宝塚医療大学観光学部宮古島キャンパス

地域おこし、地域活性化の事業の視点から視察させてもらった。

医療大学が観光学部を創設するねらいは、理事長・学長のあいさつによれば「観光業の教育・研究を通して、観光業に貢献する人材を育成し、地域を、日本を活性化すると共に、「観光」と「健康」を融合させ、新しい観光のあり方、観光資源を生み出すことができる学部に育て」るということである。

2023 年 10 月に認可が下り、翌 2024 年 4 月開校と募集活動が十分にできないままの開校となった。施設は、廃校になっていた中学校の用地(賃貸)と校舎(無償譲渡)の改修により整備された。大学構内に 127 名定員の寮が整備されている。また、ホテル・企業の奨学金制度(四年間で 96 万円貸付け。就職し、一定期間勤務すれば返済免除)が用意されている。

なお、地元の城辺地区地域づくり協議会から教育長と大学宛に設置要請が 出されている。定員 100 人中 30 人を宮古島枠としており、1 年次だけでも学 生が島内に留まることで保護者の負担を減らし、卒業後の人材引き留めにつ ながることを地元は期待している。

本年度は、日本人学生はおらず、モンゴル、ネパール、パキスタンの各国人 2名、ロシア人1名の計7人の学生によるスタートとなっている。

来年度は、100名の学生を確保できるか、特に30名枠を島内の学生で埋めることができるか気になるところである。観光はこれからの日本にとって重要な産業になる。島内の若い人たちの選択に期待したい。





視察報告書 荒井 直彦

1. 視察先 中山コーヒー園 住所:沖縄県名護市中山378 面談者 岸本 辰巳(55歳) ガーデナー *法人登録では 代表 *創業は 2013年にコーヒー苗木を300本、植えることから、始まりま した。

*現在の従業員は 8名(沖縄出身者は岸本さんだけで、あとの方は県外)

2. 経過

植えてから3年後 2016年頃にやっと実がつきはじめたが、コーヒーの商品化をするノウハウがない状況であったが、実を乾燥させる機械導入を検討している中、機械メーカーではない2017年にも北海道(帯広出身)由居広海さんと出会い、2年間の名護と北海道の2200Kmのやり取りを続け、由居広海さんが2019年に特別な乾燥機1台と共に沖縄に移住して「岸本 辰巳の栽培技術と由居広海の乾燥技術が合体し、中山コーヒー園は 本格的に動き始めた。

- 3. 現在の管理本数 今後の展開
 - 2024年4月現在で 約2000本、今年の秋に300本、植樹予定。 *苗木に関しては 沖縄の気候に最適なコーヒーの木を選別している。 今でも研究・開発・挑戦の志は ぶれないが 今回の秋に植樹する苗木は全て 自家製である。(現状では、コーヒーの木を増やすと、管理が追いつかない状態)

*山の中ではあるが 用地は既に整備されていた。(所有されている山は標高 199mが最大で、一部は 辺野古の埋め立て土に利用されていた。

- 4. 商品の販売について
 - *ネットでの販売が中心

(コーヒー豆の選別、梱包等に関して、障害者施設との連携を図っいる。

- *全国からコーヒーの木 オーナー制度を導入している。現在の会員数は個人・法人合わせて、約50本程度である。(植える時期が限定している) *契約等には、至っていないが、業界の方々の問い合わせ等もある。
- 5. 現在の課題 台風の去ったあとの、管理・清掃が毎回、大変である。 *私自身も沖縄に在中していた関係で、台風のあとの砂浜や駐車場の清掃は、 毎回、全社員で協力して解決して行くことが当たり前の事でした。
- 6. 所感 今回の視察では、葉山への導入するため、「コーヒーの木」の苗木の購入はしていないが、次回には、苗木を購入して、いずれ挑戦したいと思います。











